

# 関西がひとつになれば、

## 知事対談

# 日本を元気にできる

「かんこフードサービス(株)の看板である似顔絵をご存知だろうか。ねじり鉢巻に、メガネの奥の鋭くも優しい眼差し。モデルは創業者で和歌山県出身の小嶋淳司氏だ。

自称「大阪・小さな店」を、一代で年商215億円の飲食チェーンにまで発展させた外食ビジネスのバイオニアが、自身の半生と商売観を語り、また仁坂知事とともに和歌山の食文化、さらには関西や日本の経済活性化のための指針を語り合う。



かんこフードサービス(株)会長 和歌山県知事

## 小嶋淳司 × 仁坂吉伸



### Profile

小嶋淳司 (こじま あつし)  
1935年和歌山県西牟婁郡上富田町生まれ。かんこフードサービス(株)創業者、現会長。63年に大阪・十三に「かんこ寿司」を開店。炉端料理、和食、とんかつ店などを次々と全国展開し、08年度の年商215億円。関西経済同友会代表幹事や日本フードビジネス協会理事を歴任し、08年には大阪商工会議所副会頭に就任。

「大阪一の大きな店にしよう」と、従業員にはいつも夢を語って

仁坂 どのような能力が求められますか。

小嶋 かんこでは和歌山の漁港と契約し

学し、本格的に商売を勉強したんですが、私の商売の原点は上富田での4年間です。鍛えられ、教えられた。当時、地元のある銀行の支店長さんに資金援助をお願いしたんですが、私が高校生ながら店先に立っていることを知っていて、「いつも懸命に働いている君なら信用できる」と短期の仕入れ資金を無担保で貸してくれたんです。商売は実績を積み上げていけば、儲けだけでなく、信用という財産も得られると知りました。

いたんですが、ある時従業員が私のことを「大ぼら吹き」と言っているのを耳にしてしまったんです。ショックでした。自分の思いが伝わっていないことに愕然とした。これはすぐにでも結果を見せなければ、誰もが無謀だと言わなかつた。創業1年半足らずで120坪の土地に4階建ての店を開いたんです。大変でしたが、あるとき決断し実行して本当に良かった。従業員の私に対する態度も変わりましたしね(笑)。

小嶋 リーダーシップ、決断力、企画力、積極性、使命感などですね。これだけの能力を持つていけば、1人でも成功できます。しかし、かんこは、これだけの能力を有した人間が何人も集まり一体となって、お客様と社会に貢献しようとしています。

# 小嶋淳司 × 仁坂吉伸

関西がひとつになれば、日本を元気にできる



一体となって、鮮度と味の良いネタを提供しています。日本料理の基本となる醤油や味噌、鰹節もルーツは和歌山です。味も最高です。魚と醤油、味噌が美味しければ、調理する必要がない(笑)。果物は、みかん、桃、柿をはじめ和歌山でできない果物はないというくらい種類が豊富です。ね。

仁坂 和歌山は気候がとても良いんです。みかん、うめ、かきなど生産量全国1位のものが、かなりあります。桃やキウイフルーツも上位です。

小嶋 品質もトップクラスだと思います。桃の産地で有名な長野県の知り合いに、\***あら川の桃**を食べさせたら、その味に感動していました。外国のレストラン協会の会長さんたちが口を揃えて言うのは、日本の果物の美味しさ。特に和歌山産を絶賛しています。

仁坂 みかんに関しては現在、少々値段は高いけれども、美味しいみかんジュース作りに取組み高評価を得る農家、企業が和歌山に増えてきています。その他では、\***熊野牛**など畜産業もがんばっているし、イノシシ、

小嶋 私も創業時に資金面で苦労したので、これらの支援策はうらやましいですね(笑)。でも事業者にとつて最も心強いことは、知事が先頭に立っておられることだと思います。だからこそ皆さん安心して積極的に活動できるんだと思いますよ。

し、賛同してくださる人も増えてきています。実際に海外へ販売しようと頑張ってください。実際の海外へ販売しようと頑張ってください。実際の海外へ販売しようと頑張ってください。

## 関西が頑張れば 相乗効果が生まれる

仁坂 小嶋さんは以前は関西経済同友会の代表幹事、現在は大阪商工会議所副会頭として、元気かつ、がんこに様々な提言をされています。停滞する関西経済の活性化について、意見を聞かせてください。

小嶋 京都に本社を置くワコールさんや京セラさんといった大企業の多くが、なぜ関西から離れないのか。それは京都、関西が昔から持つ独特のセンスに魅力を感じていること。はもろろん、市場としても充分魅力的だからです。関西に暮らす人々は、もともと関西という地域に誇りを持って欲しいですね。

仁坂 関西は自分たちの良さを見失って関東、特に東京の真似をしすぎたように感じます。東京でなければ国内や世界を相手にビジネスができない、と考えている人も少なから

鹿をジビエとして活用することも考えています。しかしこれまで和歌山は、それら素晴らしい素材があるにもかかわらず、アピールして販売することが下手だった。知事に就任してまず、和歌山の物産の販売促進に力を入れました。東洋一の食品展であるFOOD EXやスーパーマーケット・トレードショーといったバイヤーが多く集まるイベントに出展したり、海外へもどんどんアピールしています。

小嶋 素晴らしいですね。私は和歌山が誇る数々の素材を、観光と一体化してPRしてはどうかと考えています。そこでしか取れない農産物の収穫から加工までを観光客に見せ、体験させ、味わってもらおう。そうすれば農産物のPRにとどまらず、より多くの観光客も獲得できるのではないのでしょうか。

仁坂 \***「めっけもん広場」**をもっと盛り上げるなど、和歌山を訪れてくれた方に複合的な楽しさを提供したいという思いは以前から持ち続けています。さらに、次には売るだけでなく、作る方のテコ入れも行うことにし、生産、加工、流通、販売を総合的に支援する、「新農林水産業戦略プロジェクト」を立ち上げました。ちょっと名前が固いんですが、これは農水畜産物の産地を重点支援するプロジェクト

ずいぶんではないでしょうか。関西に暮らす人々が、関西と関東が双極、対等であるという気概を失っているとすれば、それは関西だけでなく、日本全体の経済活性化の観点から見てもマイナスだと思います。

小嶋 関西特有の自然や技術力、科学力を結集すれば、他地域には真似のできない価値を創造できるはずです。観光で言えば、関西には山や海、歴史的遺産に街並み、温泉、そして独特の食文化といった資源が非常に近距離に密集している。こんな地域はヨーロッパにもない。これらを観光地別ではなく、素晴らしいひとつの観光地「関西」としてPRしてはどうでしょうか。つまり関西の一体化です。関西が頑張れば、相乗効果が生まれ日本全体の活性化につながると思います。

仁坂 そのためには、自治体は自分たちの利益、発展だけを考えるのではなく、それぞれが関西全体、日本全体のことを考える必要があります。道路建設などの公共事業に

クトで、農林漁業の収益性を高めるのが狙いです。また、地域固有の資源を活用して、個性豊かで活力ある地域づくりを推進する「わがまち元気プロジェクト」を採択し、農林水産業に限らずあらゆる産業を支援しています。

小嶋 「中小企業元気ファンド」もあります。仁坂 そうです。中小企業の新事業の発掘と事業化を支援し、新事業創出を図るものです。この補助金は、対象となる事業が革新的であればどのように使っていただいても良いし、後で返済していただく必要もありません。こうした支援策はだいたい揃ってきました。

小嶋 行政が制度やシステムをつくり、そこに産業が加わる。私も飲食業界もぜひ活用していただきたい。取引が生まれれば、高い質と多くの量の物やサービスが安定的に提供できるようになるはず。仁坂 わかりました、頑張ります。本日はどうもありがとうございました。



ケンケン漁(鯉) 船を走らせ疑似餌をおどらせ、魚を誘惑して釣り上げる。西牟婁郡すさみ町のケンケン漁が特に有名。沖合から短時間で市場に運ばれ、丁寧に血抜きされた鯉の身は、脂がのっているにもかかわらずさっぱりとした食感と舌にまとわりつくような旨味がある。



あら川の桃 その質の高さ、味の良さから全国的に高い評価を得ている紀の川市桃山町「桃源郷」の桃。砂れきを含んだ水はけの良い地質と温暖な気候が、桃栽培に適していると言われている。



熊野牛 県南部、熊野地方で旧藩時代から農耕用の貴重な労働力として飼育されていた和牛で、後に選抜された血統を取り入れた品種改良により地域ブランド化。04年より、消費者がより安心して熊野牛を購入できるようにと認定制度がスタートした。肉質はきめ細やかで柔らかく、風味は松阪牛などに並び称されるほど。



めっけもん広場 紀の川市にあるJA紀の里のファーマーズマーケットで、JAの農産物直売所として売上高日本一。数多くの地場産の新鮮な野菜や果物が並ぶ。商品のバーコードには生産者の名前が記されているほか、生産者が電話回線・パソコン・携帯電話を使って販売状況をリアルタイムに確認できるなど、商品管理も最先端。

※第一次産業(農畜産物の生産)事業者が第二次産業(食品加工)、流通・販売(第三次産業)にも主体的かつ総合的に関わることによって、加工賃や流通マージンなどの付加価値を得ることによって農業を活性化させようというもの。第一次の1と第二次の2、第三次の3を足して6になることをもじった造語。